

本当のファッション

－制服に託した思い－

1 学年 第8学年〔後期〕

2 主題名 個性の伸長〔1－(5)〕

3 ねらい

「明美」が甲賀さんとの電話の後、甲賀さんの思いを友達にどう伝えるか考えることを通して、個性について理解し、個性を伸ばして今をよりよく生きようとする態度を育てる。

4 資料名 「本当のファッション」

5 展開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 デザイナーの仕事について気付きを発表する。 ○ ファッションデザイナーという職業はどんな仕事だと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ カッコいい。 ・ 華やかな仕事だなあ。 ・ モデルや芸能人と仲良くなれる。 ・ 才能がないとなれない。 	○ 甲賀さんの作品の写真を掲示してイメージ化することで、資料への興味付けを行う。
展開	2 資料「本当のファッション」を読んで話し合う。 ○ 「明美」は制服のスカートを短くすることを、どのように思っているのでしょうか。 ○ 「明美」は甲賀さんに電話をかける時、どんな気持ちだったでしょう。 ◎ 「明美」は甲賀さんの制服に寄せる思いをどんなふうに友達に伝えたでしょう。 3 「個性」について考える。 ○ 甲賀さんの考え方から、あなたは自分の「個性」をどのように作り、伸ばしていきたいですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなと同じじゃつまらない。 ・ 少しくらいなら変形して着てもかまわない。その方がカッコいい。 ・ 自分が一番、制服を個性的に着こなしている。 ・ どきどき、わくわくしている。 ・ 友達にも自慢できる。ビッグニュースになるな。 ・ 何から話そうかな。 ・ ラッキー、弟子入りのチャンスが巡ってきた。 ・ 制服をきちんと着こなしてこそ本当のファッションなんだよ。 ・ 制服は個性が出せないから、中身の個性を伸ばせることに集中できる。 ・ 中身の個性を磨いてほしい。 ・ いろんなことに挑戦し、その中から自分のよさを発見していきたい。 ・ 当たり前のことを当たり前に続けていくことで、自分が磨かれていくのかなあ。 ・ 中学生の時代は体も心も大きく成長する時期だから、本当の個性を伸ばすためにも有意義に生活していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 憧れのデザイナーになることへの期待が大きく膨らんでいる「明美」の心情に共感させる。 ○ 「制服は個性が出せないから本当の個性を伸ばせる」という言葉の意味を考えさせる。 ○ 他人と違った事で目立つことが本当の「個性」ではない。毎日の生活をよりよく一生懸命に生きることによって作られていくものであることに気付かせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個性は中身を磨くことで、本当の自分のよさを光らせることができるんだなあ。 	○ 制服を着て仕事をしている職業人が制服についてどう考えているか、取材したことをもとに話をするのもよい。

6 授業の概要

(1) 主題について

本主題は、内容項目〔1－(5)〕「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する」をもとに設定した。一人一人の人間は、姿や形が違うように、人それぞれには必ずその人固有のよさがある。

中学生の時期は、自我に目覚め自己主張を強くするようになり、ファッション等にも興味をもち始める。制服にしてもスカートを短くしたりするなどして、正しく着こなさないことが個性を主張する一つであると捉えている生徒は決して少なくない。実際、社会生活では、服装は個性を発揮する要素のひとつと言えよう。しかし、中学生時代は、心も体も一番伸びる時期である。この時期を同じ制服で過ごすことは仲間意識をもたせることの他に、個性を人間の内面としてとらえ、内面の成長に集中させるという点で深い意義を持っている。このことをしっかり理解させる中で、自己を見つめさせ、自己の向上とは何か、本当の個性とは何かをしっかりと考えさせ、充実した生き方を追求する意欲へとつなげたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用時期

この資料は制服の意義を理解させる場面でも使えるため、一年生の最初の時期等に取り扱うこともできる。また、呉市では、第8学年を対象に8月の末に5日間の職場体験学習「キャリアアスタートウィーク」を実施している。本資料は職場体験学習の前後に活用することで、実際の社会でも服装など身だしなみが大切にされていることを知る体験を踏まえた上での活用も考えられる。

イ 資料活用上の留意点

この資料を直接、服装を乱す生徒への指導資料として扱うことは避けたい。主人公「明美」は、甲賀さんの考えに納得してスカートを短くするのをやめたのではなく、手を止めたところで話を終えている。中心発問はむしろ、まだ、納得していないかもしれない「明美」が「甲賀さん」の考えをどう伝えるかを自分の立場で考えさせることで、「制服は同じだからいいのよね。制服で個性が出せないから個性が伸ばせる。」意味を捉えさせることで主題にせまらせたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

導入では、ファッションデザイナーという職業へのイメージを高めるため、「甲賀さん」の作品の写真を掲示する。ファッションデザイナーというキーワードを手がかりに、どんな職業なのか、どんな才能が必要か等について、自由に発言させる。また、デザイナーが開催するファッションショー等を視聴させ、華やかなイメージから入り、資料への興味付けを行うことも考えられる。

イ 発問のつながり

基本発問では、ファッションに興味があり、ファッションデザイナーになりたいという夢を持ち、甲賀さんに弟子入りしようとする前向きな「明美」に共感させたい。「明美」の挑戦がどうなっていくか、予想させた上で、資料の二枚目を配付し、「明美」が甲賀さんと電話で話をする中で最悪のセンス等と否定された「明美」の心情を考えさせたい。さらに、中心発問では「甲賀さん」の考えを伝えなければならなくなった場面設定において、「明美」が「甲賀さん」の考えを理解した内容がどのようなことなのかについて、しっかり語らせたい。

ウ ワークシートの工夫

中心発問では、ワークシートに書かせるなどしてしっかり自分の考えをもたせたい。また、指導者が机間指導をする際に、生徒が書いた内容を把握しながら、意図的な指名等によって話し合いを充実し考えを深めさせたい。

エ 終末の工夫

終末では、制服を着ている職業人（銀行・警察官・消防署員等）の写真（第8学年であれば職場体験先での写真）を提示しながら、その人達が制服をどのように考えて着こなしているのか、インタビュー結果等を用意しておくといよい。

執筆者より

とかく友達関係や社会の流行に身を任せ、深く考えることから逃避し、安易な方向を選択し、その結果、自分のよさを発揮できない生徒も中にはいる。本資料は、本校出身で現在、服飾界で活躍している先輩と「明美」との電話でのやりとりを設定することで、より自分自身を見つめさせることができるようにした。